

3-4 ホール

(1) 施設の概要、設置状況

ホールは、以下の設置条例に基づき5つの施設が設置され、貸室や各種イベント開催などの事業を行っています。

なお、島ヶ原会館及びあやま文化センターについては、施設の一部で公民館と図書室のサービスを提供しているなど、施設の多機能化も図られています。

<ホール設置条例一覧>

- ・伊賀市文化会館の設置及び管理に関する条例
- ・ふるさと会館いがの設置及び管理に関する条例
- ・島ヶ原会館条例
- ・あやま文化センターの設置及び管理に関する条例
- ・青山ホールの設置及び管理に関する条例

施設名称	地区	所管課	施設延床面積	駐車場	運営形態	設置根拠	備考
伊賀市文化会館	上野	企画課	5325.77㎡	有	指定管理	地方自治法第244条の2第1項／伊賀市文化会館の設置及び管理に関する条例	公益財産法人伊賀市文化都市協会に指定管理
ふるさと会館いが	伊賀	企画課	2842.27㎡	有	指定管理	地方自治法第244条の2第1項／ふるさと会館いがの設置及び管理に関する条例	公益財産法人伊賀市文化都市協会に指定管理
島ヶ原会館	島ヶ原	島ヶ原振興課	1248.90㎡	有	指定管理	島ヶ原会館条例	島ヶ原地域まちづくり協議会に指定管理
あやま文化センター	阿山	企画課	3098.00㎡	有	指定管理	地方自治法第244条の2第1項／あやま文化センターの設置及び管理に関する条例	公益財産法人伊賀市文化都市協会に指定管理
青山ホール	青山	企画課	2251.10㎡	有	指定管理	地方自治法第244条の2第1項／青山ホールの設置及び管理に関する条例	公益財産法人伊賀市文化都市協会に指定管理

表2-3-10 ホールの一覧



伊賀市文化会館



あやま文化センター

(2) 施設の状況

ホールを構成している5棟の老朽化率の平均は34.3%となっています。ほとんどは鉄筋コンクリート造の平成以降に整備された新耐震基準の建物ですが、島ヶ原会館は昭和46（1971）年度に整備された旧耐震基準の建物であり、耐震診断の結果、耐震性が低くなっています。^{※82}

施設名称	建物名称	延床面積	建築年度	老朽化率	残存年数	主体構造	耐震性	大規模改修	建物性能
伊賀市文化会館	文化ホール	5325.77	平成3年度	38.0%	30年	鉄骨鉄筋コンクリート	有	有	3.6点
ふるさと会館いが	文化ホール	2842.27	平成6年度	32.0%	33年	鉄筋コンクリート	有	無	3.9点
島ヶ原会館	会館	1248.9	昭和46年度	78.0%	10年	鉄筋コンクリート	無	無	2.0点
あやま文化センター	センター	3098	平成16年度	12.0%	43年	鉄筋コンクリート	有	無	3.9点
青山ホール	文化ホール	2251.1	平成6年度	32.0%	33年	鉄筋コンクリート	有	無	3.5点

表 2-3-1 1 建物性能一覧表

ホールの建物性能評価点を施設単位で比較した図2-3-18のグラフでは、用途内の平均点（3.4点）は全施設の平均（2.7点）を大きく上回っています。

個別施設で見ると、島ヶ原会館が2.0点と低くなっています。

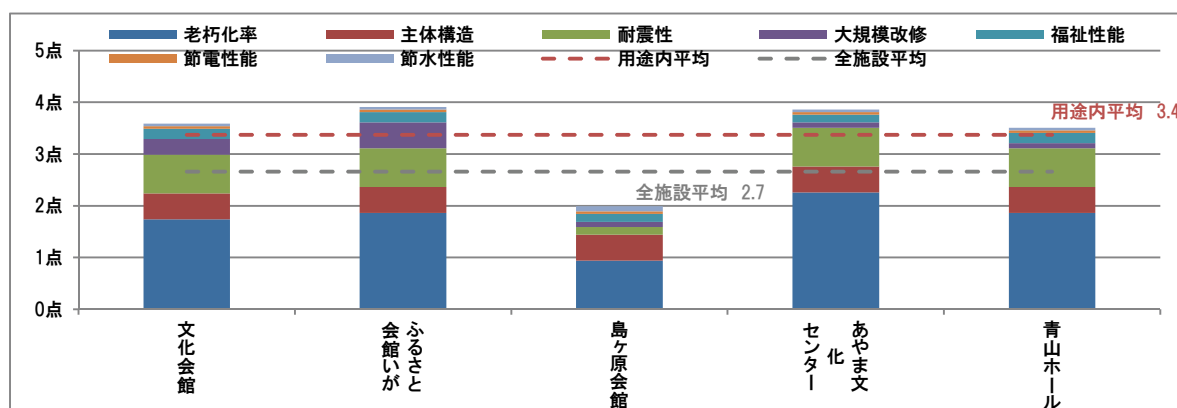


図 2-3-1 8 建物性能評価点の比較（5点満点）

※82 島ヶ原会館は平成25（2013）年度に耐震補強の設計を予定しています。

(3) 財務の状況

図2-3-19は、保有コストの過去3年間の推移と面積当たり保有コストを比較したグラフです。ホール全体の保有コストは（63,502千円/年）となっています^{※83}。

また、面積当たり保有コストでは、青山ホール（5.5千円/人）が平均（4.2千円/人）を上回っていますが、これは一部光熱水費や修繕料を市が負担しているためです。

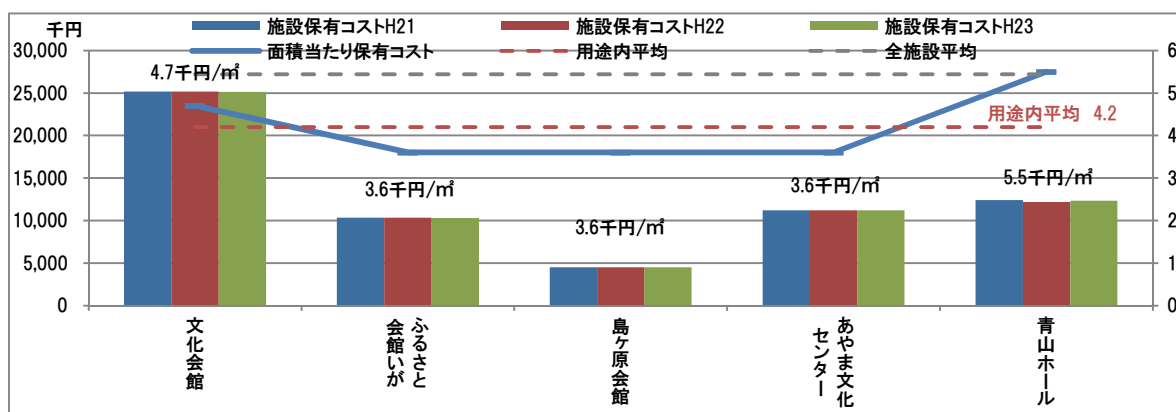


図2-3-19 施設保有コストの推移と面積当たり保有コストの比較

利用者一人当たり総コストについては、島ヶ原会館が18,552円/人と平均5,314千円/人を大きく上回っています。一方で、他の施設では3,000円/人以下となっています。

このため、最も少ない文化会館（1,209円/人）と最も多い島ヶ原会館（18,552円/人）では、10倍以上の差が生じています。

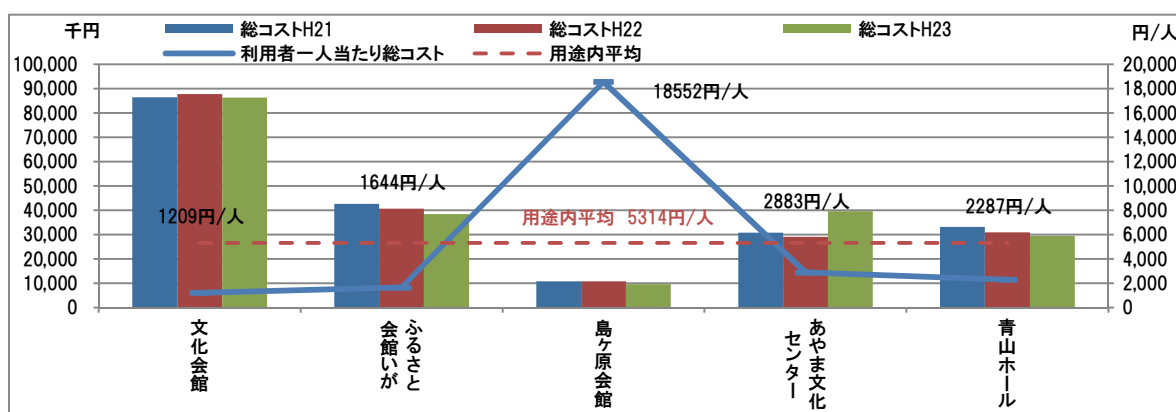


図2-3-20 総コストの推移と利用者一人当たり総コストの比較

※83ホールでは指定管理者制度を導入しているため、原則として光熱水費などは指定管理料に含まれておりかかっていません。

(4) 供給の状況

ホールの直近の利用者数は、556人から355,481人となっています。過去3年間の利用者数の増減率を比較すると、9.5%の増加から5.1%の減少となっています。

施設名称	貸室利用者数_H21	貸室利用者数_H22	貸室利用者数_H23	増減率	貸室部屋数	貸室利用定員 (70%計算)	貸室稼働率
伊賀市文化会館	324,775 人	288,164 人	355,481 人	9.5%	5 室	772,138 人	41.8%
ふるさと会館いが	87,647 人	105,440 人	87,647 人	0.0%	6 室	361,198 人	25.9%
島ヶ原会館	578 人	558 人	556 人	-3.8%	7 室	29,106 人	18.6%
あやま文化センター	45,090 人	47,094 人	44,422 人	-1.5%	6 室	203,874 人	22.3%
青山ホール	123,096 人	104,364 人	116,852 人	-5.1%	6 室	257,877 人	44.5%

表 2-3-12 ホールの利用状況

ホールについては、定員に対する稼働率^{※84}（ホール及び貸室の年間利用定員の70%に対する過去3年の平均利用者数の実績）を指標として比較を行いました。稼働率の平均は30.6%となっていますが、ふるさと会館いが（25.9%）、島ヶ原会館（18.6%）、阿山文化センター（22.3%）では30%未満となっています。

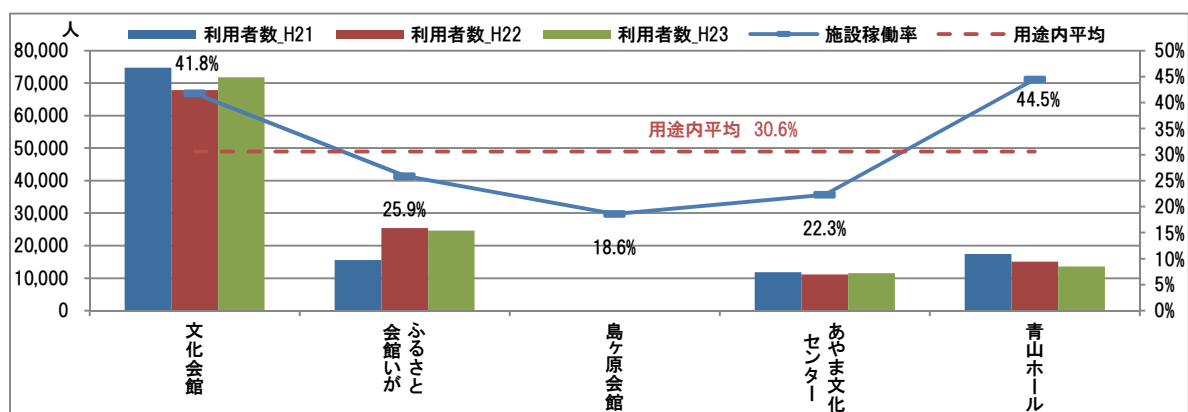


図 2-3-21 利用者数の推移と施設稼働率の比較

※84 ホールの貸室数などについては、公益財団法人伊賀市文化都市協会の HP

<http://www.bunto.com/> などの情報から作成しました。

なお、稼働率は、年間の利用定員の70%に対する過去3年の平均利用者数の実績で算定しました。例）伊賀市文化会館の場合、過去3年の平均利用者数322,807人 ÷（定員110,305人 × 0.7）≒ 41.8%

ただし、島ヶ原会館については、ホール及び貸室のみの利用者数が不明なため、貸室の利用回数で稼働率を算定しています。

(5) 施設配置状況及び需給の動向

ホールは、サービス供給エリアを各支所（上野、伊賀、島ヶ原、阿山、青山）とし、需要者を全年齢と設定しました。需要者一人当たりの供給状況を比較すると、島ヶ原支所エリアが1.58、阿山支所エリアが1.25と、需給バランスが平均の1.00を超えています。

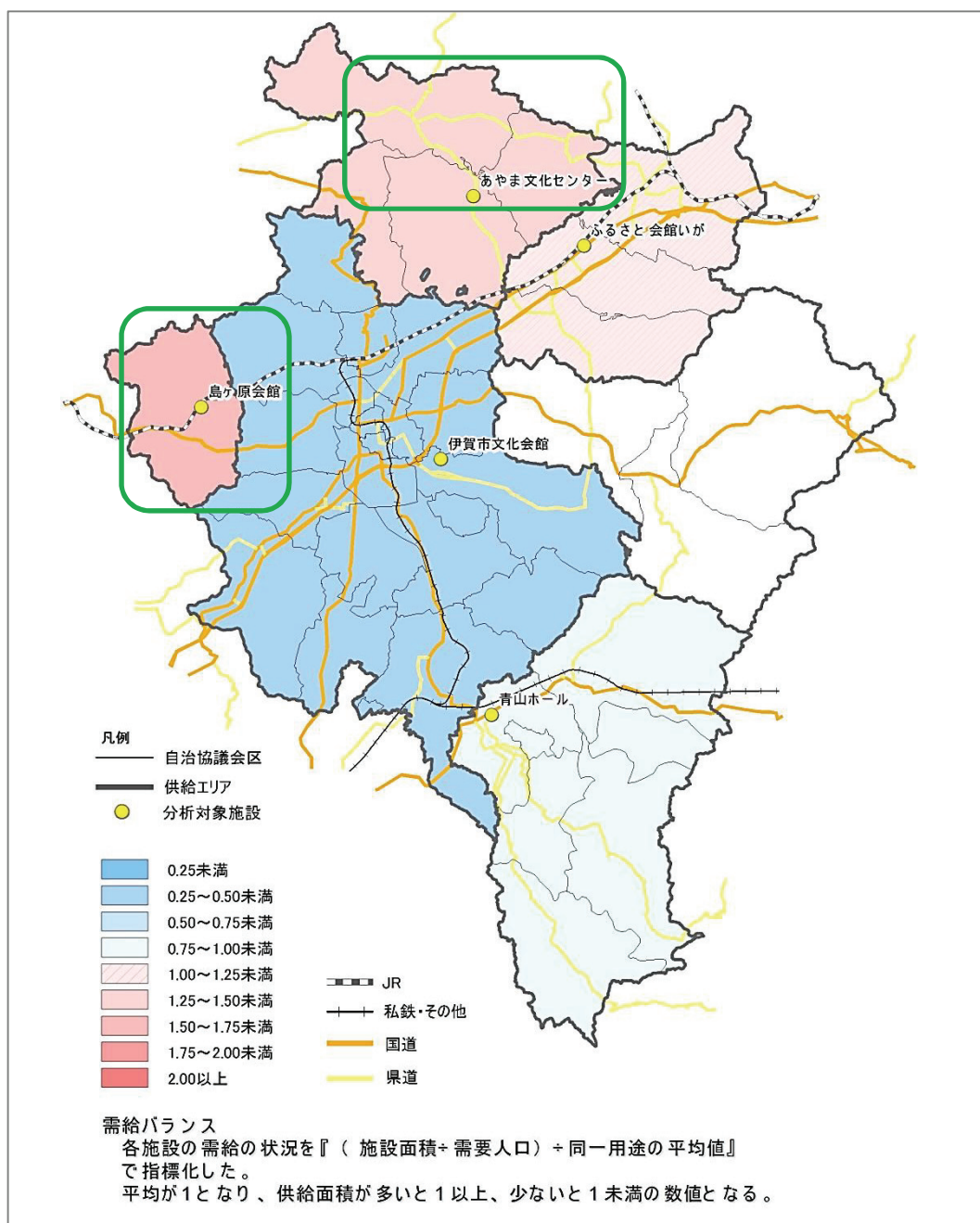


図2-3-22 需要人口（平成22年10月1日時点）一人当たりの施設供給量の比較

また、需要人口（ホールのない大山田支所エリアを除く）の将来推計からは、平成 22（2010）年度の 91,873 人から平成 47（2035）年度には 66,831 人と、27.2%の減少が見込まれます。

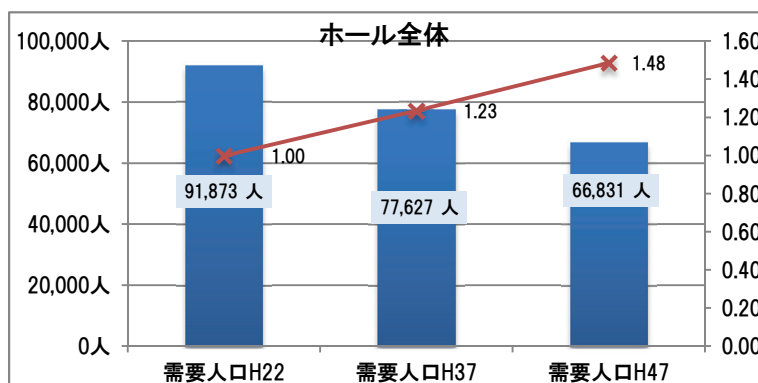


図 2-3-23 ホールの需要人口と需給バランスの将来推計

また、個別エリアの将来推計からは、島ヶ原支所エリアの需給バランスが 1.58 から 2.61、阿山支所エリアでは 1.25 から 1.80 へと変化することが見込まれます。

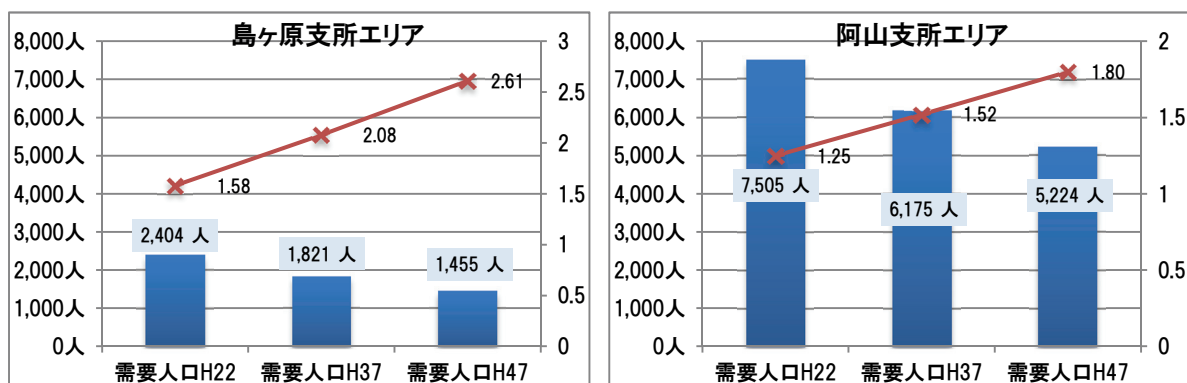


図 2-3-24 需要人口と需給バランスの将来推計（島ヶ原、阿山）

上記までの需給動向の推移から、島ヶ原支所及び阿山支所エリアを中心に、将来的には、需要人口に対して現在の供給量がより余裕傾向となっていくことが想定されます。

(6) 現状と課題

<施設>

全体の老朽化率は34.3%と良好な値となっています。しかしながら、島ヶ原会館については、耐震診断の結果、耐震性が低いため耐震改修などの検討が必要です。

<財務>

指定管理者制度を導入しているため、総コスト201,900千円/年のうち、指定管理料及び事業運営委託費が134,548千円/年と66.6%と大きな割合を占めています。また、利用者一人当たりコストでは、10倍以上の差が生じているなど、一人当たりで比較した効率性に大きな格差が生じています。

<供給・需給>

ふるさと会館いがを除き、施設の利用者数が減少傾向にあります。また、貸室及びホールの稼働率は約30%とやや低くなっており、改善策の必要があります。

特に、貸室については他用途の施設でも供給しており、今後は貸室機能の複合化などを検討していくことが考えられます。

